

日銀の視点

6月に静岡から当地に着任しました。毎月、この欄では、旬のテーマも含めて硬軟にわたる話題を取り上げていきたいと思っています。

さて、当地でも今月4日から、夏の甲子園出場に向けた高校野球の県大会が始まりました。出場92校84チームの熱い闘いに期待したいところです。ところで、野球というスポーツの醍醐味や面白さは何でしょうか。私は、他の球技とは異なる特殊性にその答えがあると理解しています。

日銀水戸事務所長 安田 武

変化に気付く扇の要に

サッカーをはじめ多くの球技は、ボールを持った攻撃側が守備側に攻撃を開始することでゲームが動きます。野球はその逆。守備側のピッチャーが攻撃側のバッターに投球することでゲームが始まりま

二、三塁と進塁し、最後に本塁を踏むことでやっと点数が入るのです。

一方、これを守備側から見ると、「1アウト、ランナー三塁」の状況をつくらせないようどう始動するかがポイントとなります。実は、ゲーム中に、そのための意識付けや指示を仲間に伝えるのが、扇

の要であるキャッチャーの大切な仕事です。野球の始動は、ピ

ッチャーの投球ではなくキャッチャーの指示、ということかもしれません。キャッチャーはその洞察力や判断力が時としてゲームの行方を左右するので、何かと批判されることの多いポジションとも言えます。

古い話になりますが、私が新人の頃、先輩方から「日銀は、野球でいえばキャッチャーのような存在。ベンチの監督とは違って、マーカーの一人として気付きや変化をいち早く発見し、必要があれば臆することなく発信するのが仕事」とよく言われました。

また、その言葉には、意見や批判も謙虚に受け止める姿勢が当然に含まれています。私も、皆さんの意見に率直に耳を傾けながら、地元の皆さんにどのような貢献ができるのか、これからしっかりと考えていきたいと思っています。どうぞよろしく願います。

す。また、多くの球技は相手のゴールにボールを入れることで1点ずつ点数を重ねていきます。他方、野球は攻撃側のバッターが単にボールを打つだけでは点数は入りません。三つのアウトカウントを取られる前に、ランナーが一、

ランナーを三塁まで進める)の状況をつくり出すことが戦術の基本になります。この状況であれば、外野フライやスクイズなども一つアウトカウントを犠牲にしても、三塁のランナーが本塁に生還できるからです。

ランナーを三塁まで進める)の状況をつくり出すことが戦術の基本になります。この状況であれば、外野フライやスクイズなども一つアウトカウントを犠牲にしても、三塁のランナーが本塁に生還できるからです。

ランナーを三塁まで進める)の状況をつくり出すことが戦術の基本になります。この状況であれば、外野フライやスクイズなども一つアウトカウントを犠牲にしても、三塁のランナーが本塁に生還できるからです。